



# 四国の森林にすむ生き物たち

日時 令和元年11月30日(土) 13時30分～16時30分  
 13時 受付開始

場所 こうち男女共同参画センター ソーレ 大会議室

〒780-0935 高知市旭町3丁目115

入場無料 事前申し込み不要 定員 200名(先着順)

主催 国立研究開発法人森林研究・整備機構

森林総合研究所四国支所・森林整備センター中国四国整備局

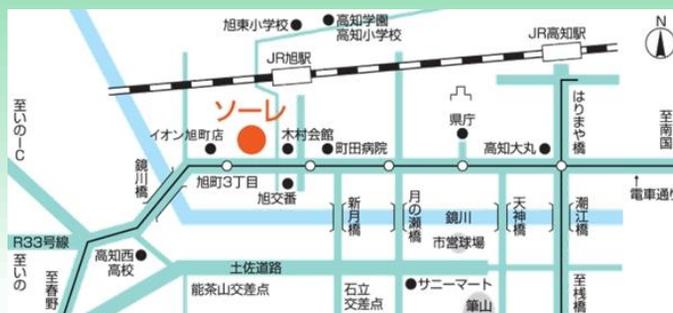
共催 高知生物多様性ネットワーク

## 講演

- 石川 慎吾 四国山地におけるシカの増加と植生の変化
- 大谷 達也 分布北限域で生きるアコウとコバチの生活
- 谷地森秀二 四国の森林に暮らすコウモリ –これまでの調査で分かってきたこと–
- 佐藤 重穂 行く虫・来る虫 –日本から出て行った虫と日本に来た虫–

## 交通

- ・JR高知駅より:とさでん交通路面電車ではりまや橋まで約5分、はりまや橋で「鏡川橋」「朝倉」「いの」方面行きに乗り換え約20分、旭町3丁目まで下車、徒歩1分
- ・JR旭駅より:徒歩5分
- ・なるべく公共交通機関でお越しください。



## 問合せ先

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所四国支所(担当:地域連携推進室)

〒780-8077 高知市朝倉西町2-915

電話 088-844-1121(代) FAX 088-844-1130

E-mail koho-ffpri-skk@gp.affrc.go.jp URL <http://www.affrc.go.jp/skk/>



## 四国の森林にすむ生き物たち

四国は日本列島の主要4島の中ではもっとも面積が狭いですが、海岸の亜熱帯植生から山岳域の亜高山帯植生まで多様な森林が広がっています。その中にはさまざまな生き物が住んでいて、森林生態系を構成しています。生態系の中では複数の種類が互いに結びつきながら、影響を及ぼしあって生活しています。本講演会ではこうした森林にすむ生き物たちの暮らしの一端を紹介します。

主催者あいさつ	13:30	小林功(森林総合研究所四国支所長)
講演1	13:35	四国山地におけるシカの増加と植生の変化 石川慎吾(高知大学名誉教授) 四国山地では2000年ころからシカの個体数が急激に増加し始め、シカの過剰な採食による植生の変化が進行しています。本講演では、まず四国山地主稜線におけるシカの食害の分布状況を示した後、特に植生変化の激しい三嶺山域における、ササ草原の消失とその後の植生変化および林床植生の著しい衰退について述べます。加えて、「三嶺の森をまもるみんなの会」が設置した防鹿柵による植生の保全効果についても紹介します。
講演2	14:15	分布北限域で生きるアコウとコバチの生活 大谷達也(森林総合研究所四国支所 森林保育管理担当チーム長) サクラの花は春、カキの実は秋というように、温帯に生育する樹木は種ごとに決まった季節に繁殖します。しかし、熱帯から広く分布し室戸岬のあたりを北限とするアコウ(クワ科イチジク属)は、ちょっと変わった繁殖をおこなうため一年中いずれかの樹木が実を付けています。熱帯の性質をもちながら温帯に生育している樹木がどのような生活をしているか、ご紹介いたします。
講演3	14:55-15:15	ポスター発表(森林総研四国支所、中国四国整備局、高知生物多様性ネットワーク)
講演3	15:15	四国の森林に暮らすコウモリ —これまでの調査で分かってきたこと— 谷地森秀二(横倉山自然の森博物館) 四国に住むコウモリは16種もいます。四国4県で確認種はそれぞれ異なっていることや、捕獲調査によって多くの種が確認できた森林について紹介します。
講演4	15:55	行く虫・来る虫 -日本から出て行った虫と日本に来た虫— 佐藤重穂(森林総合研究所四国支所 産学官民連携推進調整監) 外来生物は生態系の保全の上で大きな脅威となりますが、元の生息地ではまったく目立たないという事例も多くあります。北アメリカで針葉樹のツガを枯死させる害虫として猛威を振るうハリモミカサアブラムシは日本からの侵入種ですが、四国の森林ではひっそりと生きています。また、近年、中国から日本に侵入したクビアカツヤカミキリはサクラやモモの害虫であり、四国でも被害が確認されています。
閉会あいさつ	16:30	岩瀬文人(高知生物多様性ネットワーク代表)

